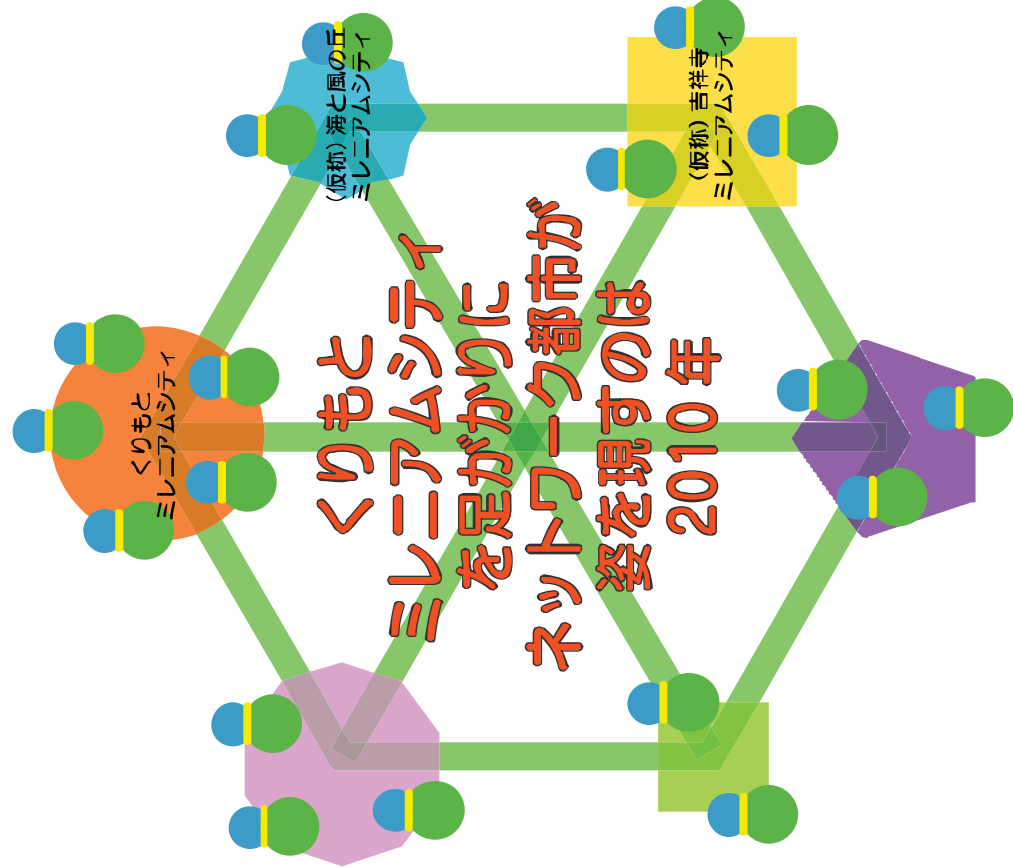


ネットワーク都市へ ミレニアムシティの2020年

ミレニアムシティの活動は、「地球環境の蘇生」と「人のつながりづくり」が目的です。そのためにネットワーク都市を各地に建設することが具体的な目標となります。

くりもとミレニアムシティを建設して4年、(仮称)海と風の丘ミレニアムシティの出発者募集がはじまった今年度は、いよいよネットワーク都市への歩みを始めました。海と風の丘ミレニアムシティは2009年には2009年に居住を始める予定です。2010年には(仮称)吉祥寺ミレニアムシティもより具体的な姿を現しはじめ、ネットワーク都市の最初の姿が見えきます。すでにいろいろいるところから施設づくりのオフアワーが届いており、それを受けて引き続き、ネットワーク都市づくりは進められます。2020年には、世界ネットワーク都市が姿を現すことになるでしょう。



くりもと
ミレニアムシティ
を足がかりに
ネットワーク都市が
姿を現すのは
2010年

コミュニケーションへの変更

これまで、ミレニアムシティの5つのキーワードの中の「コネクティブハウジング」では、つくり方としてのコアがラティブハウスとすまい方としてコレクティブハウスをつなぐものとして「このころのケア」と言ってきました。いろいろなワークショップを通じて検討した結果、この部分は「コミュニケーション」とすることが相応しいのではないかと考え、変更することにしました。ここで言う「コミュニケーション」とは、お互いの違いを認め合いつつ、相手の立場になって意志疎通を図ることを指しています。

コネクティブハウジング とをさせていただきます。

くりもとミレニアムシティ第一期

ミレニアムシティが実現したエコビレッジ第1号。落葉高木、ガラスの温室、COYAの3層構造からなる省エネルギー建築です。小さいながら、都市＝森林＝農地のミレニアムシティの理念が凝縮した建物となっています。

隣接する有機農場くもりもと地球村と連携しながら都市と農村を結ぶ農業サロンとして位置づけを持っており、毎月、ミレニアムシティワークショップが開催されています。

くりもとミレニアムシティ第二期

くりもとミレニアムシティ第一期が体験別荘としての性格を持つのに対して、定住施設として整備するのが第二期です。第一期に隣接する1000坪の敷地に計画します。

(仮称) 海と風の丘ミレニアムシティ

くりもとミレニアムシティから車で30分。東洋のドーバーと言われる屏風ヶ浦の高台の敷地につくる最先端のエコビレッジです。定住することができ、半自給自足の生活の場とすることもできます。

(仮称) 吉祥寺ミレニアムシティ

吉祥寺駅から歩いて20分の所にある、樹齢250年の森。この森を市民が享受できる環境資産として残しながら、森と農地と共生する都市を目指す「吉祥寺トラス」を実現します。

めざすは
自然循環型
共生都市



昨年末に東京ビッグサイトにて行なわれた

『Destination 2006-2026 サステイナブルデザイン国際会議』

The International Conference of Design for Sustainability』

開催概要

名称: サステイナブルデザイン国際会議
Destination 2006-2026
会期: 2006年12月14日(木)～16日(土)
「エコプロダクツ2006年開催期間中」
会場: 全体会議 東京ビッグサイト会議棟607+608会議室
展示会: 東3ホール3097
主催: サステイナブルデザイン国際会議実行委員会
共催: 国際機関APO(アジア生産性機構)

開催テーマ

以下のようなテーマのもと、世界中の環境分野の第一線で活躍しているパネリストによる講演を中心に2日間に渡り開催された。
1、サステイナビリティを地球環境の点からばかりでなく、社会的な意味や文化的なコンテクストからも捉える総合的な議論へと展開する。
2、サステイナビリティの実現に向けて必要となる技術やビジネスモデルについて生活者の視点から考え、産業社会の新たな枠組みを探る。
3、サステイナビリティな社会のポジティブなイメージを描き出すとともに、そこに至るローとマップの作成に着手する。

環境博覧会すざなみ2007

ミレニアムシティでは、今年はじめて環境博覧会すざなみに参加しました。ミレニアムシティのブースでは、(仮称) 海と風の丘ミレニアムシティや(仮称) 吉祥寺ミレニアムシティのパネルを展示すると共に、吉祥寺ミレニアムシティで朝採った野菜を並べ、おいでいただいた方にお持ち帰りをいただきました。また、区政を話し合う会に参加し、山田杉並区長に質問をさせていただきました。

